

# 秋の全国火災予防運動

11月26日～12月2日



## 石油ストーブの取り扱い 安全九か条

石油ストーブによる火災の原因は、火を消さずに給油したり、出入口など人のよく通るところに置いていて転倒させたり——といった取り扱い上の不注意によるものがほとんどです。

石油ストーブは、取り扱い方一つで恐ろしい「火魔」に一変します。日常の取り扱いには、次の点を特に気をつけてください。

### (給油する場合)

- ◎ 灯油を入れるときは、必ずいったん火を消すこと。火をつけたまま補給するのは危険です。
- ◎ 給油中にこぼれた油は、よくふきとる。

### (置き場所)

- ◎ カーテンやふすまなど燃えやすいもののそばや、上から物が落ちるかもしれない下などには置かない。
- ◎ 人の出入口や通路などは転倒の危険があるので避ける。
- ◎ 移動させる場合は、いったん火を消す。火をつけたまま持ち運ぶのは危険です。

### (周囲の状況)

- ◎ 新聞や雑誌など燃えやすいものは、そばに置かない。
- ◎ ヘア・スプレー、マニキュア、接着剤など引火性のあるものは、そばで取り扱わない。

### (新しく買う場合)

- ◎ 「対震自動消火装置」のついたものを選び、説明書をよく読んでから使用する。
- ◎ 使用する部屋にあった構造の機種を選ぶ。

## 「仲たがい」で火は消える

### (火の三要素)

火が出る——ものが燃えるためには、「燃えるもの」と「空気(酸素)」と「熱」が必要です。これは、いわば「火の三要素」といえます。このうち、どれか一つでも欠けると、物は燃えません。

つまり火を消すということは、この「燃える三要素」のどれか一つを取り除く、あるいは、しゃ断してやればよいということです。わたしたちは、ふだん家庭の台所などで、毎日、火をつけたり消したりしています。このような「点火」と「消火」のしくみは、別の言い方をすれば、燃える三要素を組み合わせた、「仲たがい」させたりしていることになるのです。消火のコツも、ここにありま

す。

消火の方法は、この燃える三要素

十一月から三月にかけての冬場は、石油ストーブなどの暖房器具を使うことから、一年のうちでも最も火事の多い季節です。

火災の原因をみますと、暖房器具の中で一番多いのは、なんとといっても石油ストーブです。

今年も、十一月二十六日から十二月二日まで、秋の全国火災予防運動が繰り広げられます。

・秋の火災予防運動が始まります  
(11月26日～12月2日)

暖房器具を正しく使おう!

9月中の火災、(内は今年の累計)

長門市	1	(16)	たばこの投げ捨てが原因で
三隅町	0	(2)	建物の外壁が
油谷町	0	(2)	焼けました。
日置町	0	(6)	

- ◎ 暖房器具は取扱説明書をよく読み正しく取扱う。
  - ◎ 使用前の前には、必ず整備点検をする。
  - ◎ (石油ストーブ)は、対震自動消火装置のついたものを使用する。
  - ◎ ふすまやカーテンなどの燃えやすいもののそばや、物が落下するところでは使わない。
  - ◎ 出入口や通路での使用はやめる。
  - ◎ (石油ストーブ)は、火をつけたまま持ち運んだり給油したりしない。
  - ◎ 外出するときや寝るときは、完全に消火する。
  - ◎ (ガスストーブ)のゴムホースは、安全ですか?  
(販売業者に点検を依頼しましょう)
- 長門地区消防本部・消防署  
TEL(長門)二一三一—  
西部出張所  
TEL(油谷)二一—二三〇